

### 問題 3

はじめに、1個あたりの「仕入れのねだん」を□円とし（A店もB店も同じ）、A店とB店それぞれの「仕入れのねだんの合計」を考えると、

- ・ A店の「仕入れのねだんの合計」 : □×20
- ・ B店の「仕入れのねだんの合計」 : □×30

と表される。

よって、A店とB店の「仕入れのねだんの合計」の「差」は(□×10)円と表される。

B店の方が、(□×10)円多く仕入れにお金を使っているね。

次に、A店とB店それぞれの「売ったねだんの合計」を考えると、

- ・ A店の「売ったねだんの合計」 : 180×20 (3600円)
- ・ B店の「売ったねだんの合計」 : 160×30 (4800円)

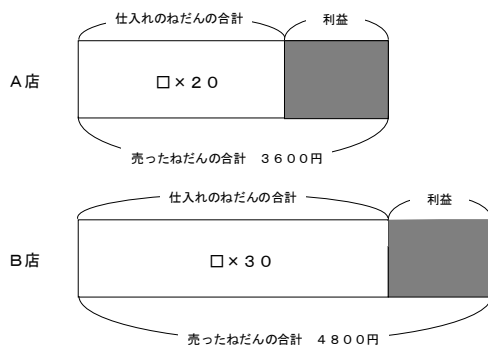
よって、「売ったねだんの合計」の「差」は1200円となる。

B店の方が、1200円多く売っているね。

「利益が同じ」とき、「仕入れのねだんの合計の差」と「売ったねだんの合計の差」が等しくなるので、

$$\square \times 10 = 1200$$

$$\square = 120$$



仕入れのときに(□×10)円多くお金を使ったB店が、1200円多く売った結果、A店と利益が同じになったんだね。

(答え) 120円